

大気浮遊じんモニタリング結果について

(令和7年10月15日から令和8年1月14日までの評価)

◎渡邊正己京都大学名誉教授(南相馬市放射線健康対策委員会委員長)による解説

令和7年10月15日より令和8年1月14日の大気浮遊じんに含まれる市内の放射能量に異常値はありませんでした。安心してお過ごし下さい。

私は昨年末、久しぶりに福島第一原発へ視察に行きました。以前より整理整頓され、作業員の服装も平服が多くなっていて、ここが大事故現場という印象は受けませんでした。

ちょうどアルプス処理水の放出をしている時期で、整然と進む状況を見学しました。

しかし、事故後15年を経ても復興は、まだまだ入り口です。関係者には、二次災害が起こらないように配慮した行動をお願いしてきました。私たちも原子力や放射線に対する基礎知識を増やし、今後の復興の動きを注意深く理解し、安全確保に力を注ぎましょう。